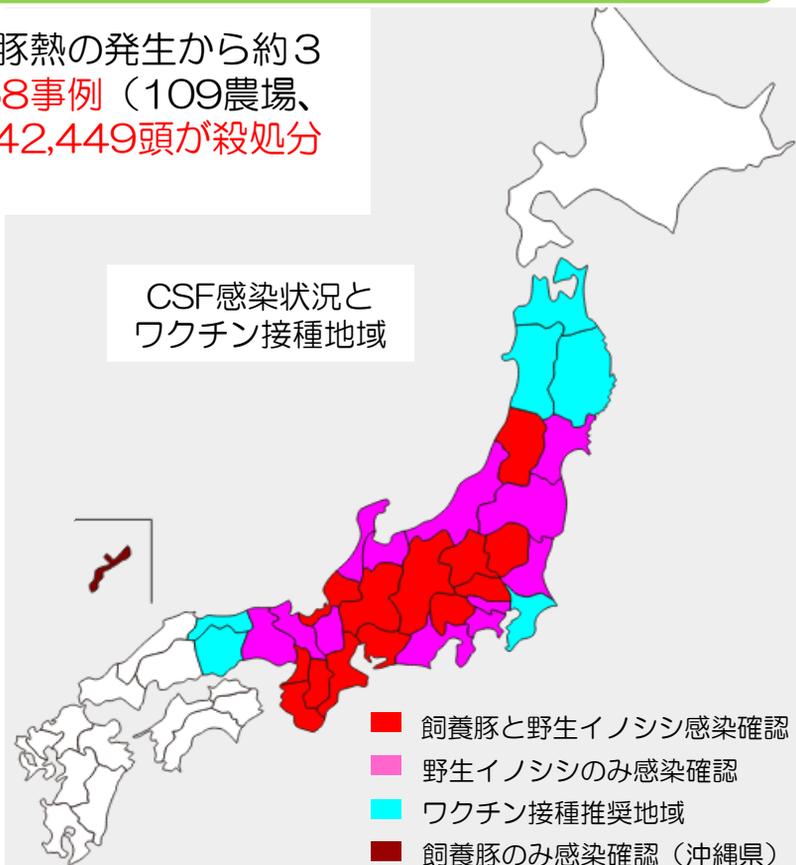


豚熱（CSF）ワクチン接種地域が拡大！

岐阜県で国内26年ぶりとなった豚熱の発生から約3年が経過し、現在までに飼養豚で**68事例**（109農場、4と畜場）の発生が確認され、**計242,449頭が殺処分**されました。

一方、野生イノシシにおいては、飼養豚での発生確認県以外でも短期間で多頭数の感染が確認されるなど、感染拡大の一途をたどっています。このような中、令和3年（2021年）6月11日に宮城県の野生イノシシで感染が確認されたことを受け、6月15日に**青森県と岩手県がワクチン接種推奨地域に追加**されました。これにより、山口、広島及び島根の**3県を除く本州全土で豚熱ワクチンを接種**することになりました。



消毒や更衣で病原体から家畜を守りましょう

昨年6月に飼養衛生管理基準が改正され、農場内への野生動物侵入防止対策の強化や、他の畜産施設で使用した**器具**、出入りする**人や車両等の消毒**の徹底が明記されました。病原体から大切な家畜を守るために、これらに加えて、農場内に入る際の**手指の消毒**や、**農場専用の衣類や靴への着替え**等を農場主自ら実践することが大切です。

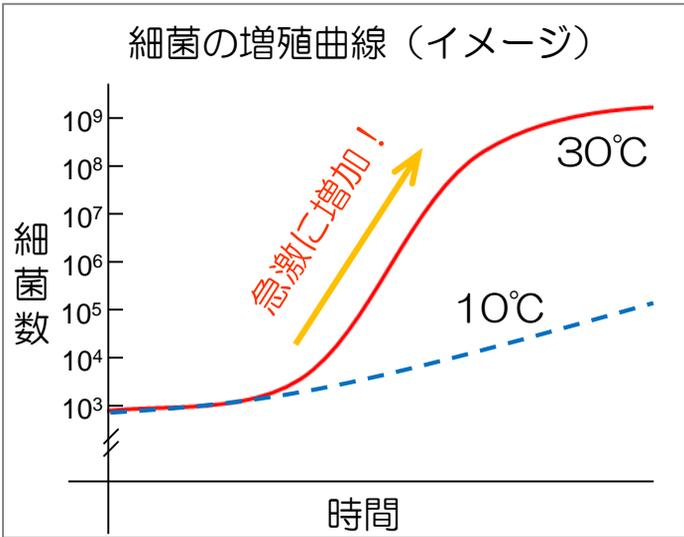


タイヤ周辺に加え、ハンドルやペダル等も消毒

他の畜産関係施設等で使用した器具の消毒、家畜に直接触れる物品は1頭毎に消毒

消毒前の確実な有機物の除去で消毒効果UP！

梅雨から夏にかけては気温と湿度が高く、細菌が繁殖しやすい環境が整うことから、様々な病気が発生しやすくなりますので、他の季節以上にきめ細かい管理をする必要があります。特に重篤な下痢や様々な病気の引き金となる**大腸菌**や**黄色ブドウ球菌**は37℃で、**サルモネラ菌**は40℃で増殖しやすく、十分な栄養と水分があれば、いずれも**約20分程度で倍に増える**と言われています。つまり、1個の細菌が6時間後には26万個に、8時間後には1,000万個に増える計算になります。



畜舎環境中には細菌の栄養源となる飼料残渣や糞が豊富にあります。畜舎の消毒効果を発揮するためには事前の「清掃(除糞)」「水洗」「乾燥」が重要ですが、特に細菌が繁殖し易い条件が揃っているこの時期には、**細菌の栄養分となる有機物(飼料残渣、糞等)を確実に除去し**、一度「乾燥」させた後、消毒を実施することで、細菌の増殖を大幅に抑えることができます。



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)	H5N8	ロシア	野鳥	令和3年5月29日
	H5N5	台湾(2件)	家禽	令和3年6月6日
	H5N8	中国	野鳥	令和3年6月11日
アフリカ豚熱(ASF)		韓国	豚・野生イノシシ	令和3年6月8日~25日
		マレーシア(2件)	豚	令和3年6月2日、16日
		ロシア	豚	令和3年6月12日

令和3年(2021年)6月30日現在



毎月**20日**はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

